LOHACOと共同でIoTハブラシのテスト販売を開始

ライオン

ライオンは、ハブラシにアタッチメントをつけて専用のアプリと連動させることで、子どもが自主的にきちんとした歯みがきを続けることを可能にするIoTを活かした商品サービス「クリニカ Kid's はみがきのおけいこ」（アタッチメント本体1個、microUSBケーブル1本（1m）、クリニカ Kid's ハブラシ 3~5才用（イエロー）1本、品質保証書付取扱説明書1部、販売価格＝1万1000円）を始動する。9月9日よりテストマーケティングとして、アスクルの日用品ショッピングサイト「LOHACO（ロハコ）」を通じた販売を開始している。

子どもが歯みがきを飽きずに長く続けられる工夫が随所に

女性活躍推進や、テレワークの推奨といった働き方改革が進む中、育児においては子どもの自立・自発的な生活習慣を定着させるニーズが高まりつつあるが、幼少期の子どもは本能的にハブラシを口に入れることを避ける傾向にあり、子どもにブラシの動きをセンシングできるアタッチメント本体を開発し、さらに絵本研究家のアドバイスも受けながら、子ども自身が「歯みがき」の大切さを理解し、やりがいや上達を実感できる絵本型コンテンツのスマートフォンアプリを開発した。

IoTハブラシをアプリに連動させるだけで、加速度センサーにより、みがく位置とみがく速度をセンシング、対象とする子ども一人ひとりのブラッシングのデータが蓄積される。上手に歯みがきができたかを点数で評価するので、子ども自身が上達を実感でき、親は重点的に仕上げみがきする場所がわかる。

さらに、アプリの中では「泥んこで汚れてしまった動物のキャラクターを歯みがきできれいにする」というストーリーが展開される絵本型コンテンツにより、子どもが歯の清潔という概念を理解しやすく、キャラクターのために歯みがきを上達したいと自ら向上心を持つ設計とした。

歯みがきに楽しく取り組むきっかけを与えるだけでなく、歯みがきの内容そのものに対する興味を高める工夫を組み込むことで、飽きずに長く続けられる内容になっている。

「今回のIoTハブラシは、子どもが使い続けたくなる3つのポイント『キレイにすると気持ちがいい』『磨き方がわかると楽しい』『上達していくのが嬉しい』を踏まえて開発した。絵本を通じて、清潔意識を学ぶことができ、磨き方も覚えることができるため、さらなる上達につながる。上手に歯みがきができるようになると、保護者が褒め、子どものやる気が上がる好循環が生まれる。飽きずに長く続けられる内容なので、77%の子どもが3カ月間継続でき、89%の保護者が子どもの成長を実感した」（クリニカ ブランドマネージャー 横手弘宣氏）

子ども一人ひとりに合った習慣化のサポートを実現

新製品発表会では、ライオンよりオーラルケア事業部長の浦尾康弘氏、アスクルよりLOHACO生活用品統括部 統括部長の平舘孝浩氏、LOHACO事業本部 副本部長の成松岳志氏が登壇し、新サービス導入の狙いや今後の展開について説明した。

ライオンの浦尾氏は、「正しい歯みがき習慣を子どもたちに身につけさせることは全ての親にとって重要な問題であり、当社が果たす役割はますます高まっている。本日紹介するのは、子どもたちが正しい歯みがき習慣を身につけるための新サービスモデルだ。様々なデジタル技術が進化する中、ライオンのIoT製品とLOHACOのECプラットフォームが連携することにより、一人ひとりに合った習慣化のサポートを実現していく」と語った。

続いて、アスクルの平舘氏は、「新サービスは、昨今のコロナ禍における非接触社会への取り組みに貢献できる。IoTハブラシを通して、ライオンの保有する歯みがき行動データと、アスクルが保有する購買データを連携することにより、より多くの子どもたちに正しいハブラシ習慣を提供していく」と述べた。

最後に、アスクルの成松氏は、「当社ではメーカーの保有する顧客データとLOHACOの購買・行動データを連携、自社で保有するデータ以外も活用したいという消費財メーカーの活動を支援している。今回のテストマーケティングでは、ライオンのデジタルトランスフォーメーションを活用、同アプリを通じて子ども一人ひとりの歯みがき行動データを取得し、その行動データとLOHACOにおける顧客・購買データなどのビッグデータとを、アスクルが展開する『LOHACO Insight Dive』の仕組みを使って連携することで、交換用ハブラシが届いたり、ハブラシ交換のタイミングをお知らせしたり、一人ひとりに最適化されたトータルソリューションを提案し、作り手の市場創造を支援していく」と語った。

私の H&B 日記

欧州サッカー開幕

欧州サッカーは今月12日、2020―21シーズンのプレミアリーグとリーガ・エスパニョーラが開幕した。

プレミアリーグでは、昨シーズン優勝チームの強豪・リバプールに所属する南野拓実選手の活躍に期待したい。

昨冬のシーズン途中に名将ユルゲン・クロップ監督が率いるリバプールへと加入し、ゴールやアシストと目に見える結果がなかなか出なかったが、挑戦2年目となる今シーズンは、開幕前のプレシーズンマッチでゴールとアシストを記録し、チームメートとのコミュニケーションやチーム戦術の理解度も徐々に高まっているようだ。

今シーズンは、世界屈指の3トップ（ロベルト・フィルミーノ、サディオ・マネ、モハメド・サラー）のバックアッパーという役割だけでなく、試合状況に応じて南野選手が3トップと同じピッチに立つ機会も増えそうで、従来の基本フォーメーション（4―3―3）以外の新たな選択肢（4―2―3―1）をチームにもたらす攻撃陣の重要なキーパーソンとして、素晴らしい活躍を期待している。

同じく、12日に開幕したリーガ・エスパニョーラでは、開幕戦で早くも久保建英選手が所属するビジャレアルと、岡崎慎司選手が所属するウエスカが対戦し、両名ともにスタメン起用が予想される。

保有元の名門クラブレアル・マドリードからビジャレアル・マドリードの一員としてプレーしてもらいたい。

岡崎選手は昨シーズン、チーム得点王で2部優勝の立役者となり、今夏のプレシーズンマッチで代名詞となる豪快なヘディングゴールを決め、開幕日本人対決に向けて弾みをつけている。

2016年に当時在籍していたレスターでプレミアリーグ優勝を果たしたあの時のように、1部に昇格した今シーズンは「ミラクルレスター」の再現を期待している。（之）